

## 住職近況



このお便りが届く頃には、最終回の放映もすんでいるでしょうか。NHK・大河ドラマ『いだてん〜東京オリムピック噺』の韋駄天について書きます。韋駄天は「天」というグループに属するほとけさまです。たとえば、映画「男はつらいよ」の舞台となるのは、柴又・帝釈天ですね。近いところでは、国宝になっていますっかり有名になった妻沼の聖天様は歓喜天をおまつりしている。どちらも韋駄天の親戚です。

ほとけさまと書きましたが、もともとは仏教ができる前からインドの人たちが信じていた神さまが仏教にとりいれられたものだそうです。これは、市川智康著『仏さまの履歴書』（水書房）からの受け売りです。本のタイトルがユニークで、「履歴書」ですから、それぞれの仏様の【現住所】【続柄】【旧姓】【専門】なんて項目が書かれていて、わかりやすく、おもしろい。

それでは、韋駄天の履歴書はというと、【特技】はご存じのとおりに、足が速い。足が速いから、修行の妨げになる魔物が近づいてきたら、走り来て退治してくれる。そのことから、禅宗の寺院でいうと、典座（てんぞ〓台所）があり日常生活をする庫裡（くり）にまつられ、とくに盗難よけが【専門】です。

ところで、皆さんが家庭の仏壇を調べようとして、仏具店へ行き、「臨済宗妙心寺派の松岩寺の檀家です」といって、店員はマニュアルをみて、「ご本尊は釈迦如来ですね」と応じて、お釈迦様の像なり絵を勧めるでしょう。まちがいではないのですが、少し安易ではないですか。

自分で『仏さまの履歴書』などを読んで勉強して、たとえば勤め先が医療関係だったら、自宅の仏壇のご本尊を薬師如来にするとか。そんな工夫があってもよいのではないのでしょうか。

なによりも、みずから選んだ仏壇のご本尊さまだから、親しみもわくし、おそらく毎日お参りするにちがいない？かも。